

宮臨技学術部 研修会報告書 平成 25 年度 作成者 戸村 弘樹	
研修会名	H25年病理部門精度管理フォローアップ研修会
担当分野	病理部門
開催日時	平成 25 年 5 月 25 日 (土曜日) 14 : 00 ~ 17 : 00
開催会場	東北薬科大学病院 2 階大会議室
参加人数	会員 19 名、非会員 1 名、(内実務員 4 名)、合計 20 名
研修内容	<p>1) 平成24年度病理組織検査精度管理調査報告・検討 佐藤 正樹 技師 (東北薬科大学病院 病理部) 高崎 健司 技師 (宮城県立こども病院 検査部)</p> <p>2) 平成24年度病理組織検査精度管理調査 —総括— 武山 淳二 先生 (宮城県立こども病院 臨床病理科)</p> <p>3) 「Gram染色」 村山 晴喜 技師 (公立刈田総合病院 病理科)</p> <p>4) 宮臨技精度管理病理部門多施設検討プログラムについて 戸村 弘樹 技師 (大崎市民病院 臨床検査技術部)</p>
感想	<p>今年度も例年同様、H24 年に行われた宮臨技精度管理病理部門のフォローアップ研修会を行った。今年はグラム染色について、精度管理報告会では解説しきれなかった内容を2名の精度管理委員から発表してもらった。宮臨技病理部門の独自の検討によって、今年は「模範染色標本」と「模範染色プロトコル」を提示できたのは非常に有意義であったと思われる。研修会では十分に報告できたと考えるが、HPへの掲載などさらに踏み込んだ試みを考えている。総括をお願いした武山先生にはグラム染色に留まらず、「感染症の病理」という幅の広い講義をして頂き、普段あまり経験することのない小児や胎盤の感染症について、免疫二重染色や <i>in situ hybridization</i> などを用いた標本で詳細に説明して頂いた。我々の染色技術がいかに診断に重要であるかを再認識させられた。村山技師には、グラム染色の原理から菌の同定まで基礎的な講義をして頂き、病理技師にも細菌の知識が不可欠であると考えさせられました。また本年度は初の試みとして、宮臨技病理部門が推奨する「模範プロトコル」を3施設に検討して頂き、その染色標本と感想を返送して頂く、多施設検討プログラムを試行した。結果は3施設とも、精度管理時よりも良好な染色となり、宮臨技の「模範プロトコル」が優良であるとの証明がなされた。このプログラムは県内の施設の染色技術向上に非常に有効な手段であるとの認識を得、来年度は本格的に行いたいと考える。最後に、病理標本作製するにあたってはプロトコルも重要であるが、それ以上に「良い標本を見極める目と知識」が重要であると確信した。「良い標本」というものがどんな標本であるか知っていれば、病理技師はそれぞれの創意工夫によってその標本に近づけることはそう難しいことではない。そのため、本年度も宮臨技病理部門では「良い標本」を追及し、「模範標本」の作製を行い、県内の施設に配布するつもりである。部門員、講師の先生方にはこの場を借りてお礼申し上げます。</p>